

令和7年度 中学生の「税についての作文」

沖縄県納税貯蓄組合連合会会長賞 税金が守る私たちの暮らし

久米島西中学校 山城 晴

今年の夏休み、私は山形に住むいとこの家に遊びに行き、近くにある月山ダムを見学しました。緑の山に囲まれた大きなコンクリートの壁と、久米島の海とは違う波のない静かな水面が広がる景色に感動しました。案内してくれた職員の方から、春には雪解け水が川に流れ込み、ダムにたまる水の量が一気に増えると教わりました。いとも「冬は大雪で家の周りが真っ白になる」と話してくれ、久米島では絶対に見られない風景だと思いました。

月山ダムでは、大きな取水口や管理室のパネルで水の量や流す時間を調整し、洪水を防いだり、農業や飲み水に使ったりしているそうです。こうした設備や運営には税金が使われています。多くの人の力が集まって地域の安全を守っていることを知り、税金のありがたさを改めて感じました。もしダムがなければ洪水や水不足で人々の生活に大きな影響が出てしまうと思います。

私は沖縄県の離島、久米島町に住んでいます。周りは美しい海に囲まれ、冬でも暖かく雪は降りません。川も短く、島の水は雨にたよっています。島の中央には雨水をためる儀間ダムがありますが、小さいため、雨が降らない日が続くと水不足になることがあります。給水制限が行われたこともあり、水のありがたさを実感することが多い場所です。父から

この儀間ダムも建設や維持に税金が使われていると聞いたことがあり、税金は私たちの暮らしを支えているのだと感じていました。

私の父は消防士で、消防車両や消防施設も税金で整えられています。町の消火栓は消防車のタンクに入れる水も、水道水として儀間ダムなどから供給されています。ダムは災害を防ぐだけでなく、火事の際にも人々の命を守っており、ダムも消防も、人々の安全を支える大切な存在です。

今回の見学で、税金はただ集められているものではなく、私たちの命や生活を守るために使われていることを実感しました。久米島では、台風や水不足で水を自由に使えなくなることが何度もあります。そのたびに、水を大切に使うよう家族で話し合ってきました。そうした中で、消防士の父から聞いた水の話と今回のダム見学がつながり、税金は私の身近な安全を守るために欠かせないものだと思えて感じました。将来、私も税金を納めることで、誰かの暮らしや命を支える立場になりたいです。